5月度 WEB「あとりえ一丁」展作品集

1:岡田理子さん

亀戸天神の藤の花　F6（水彩）

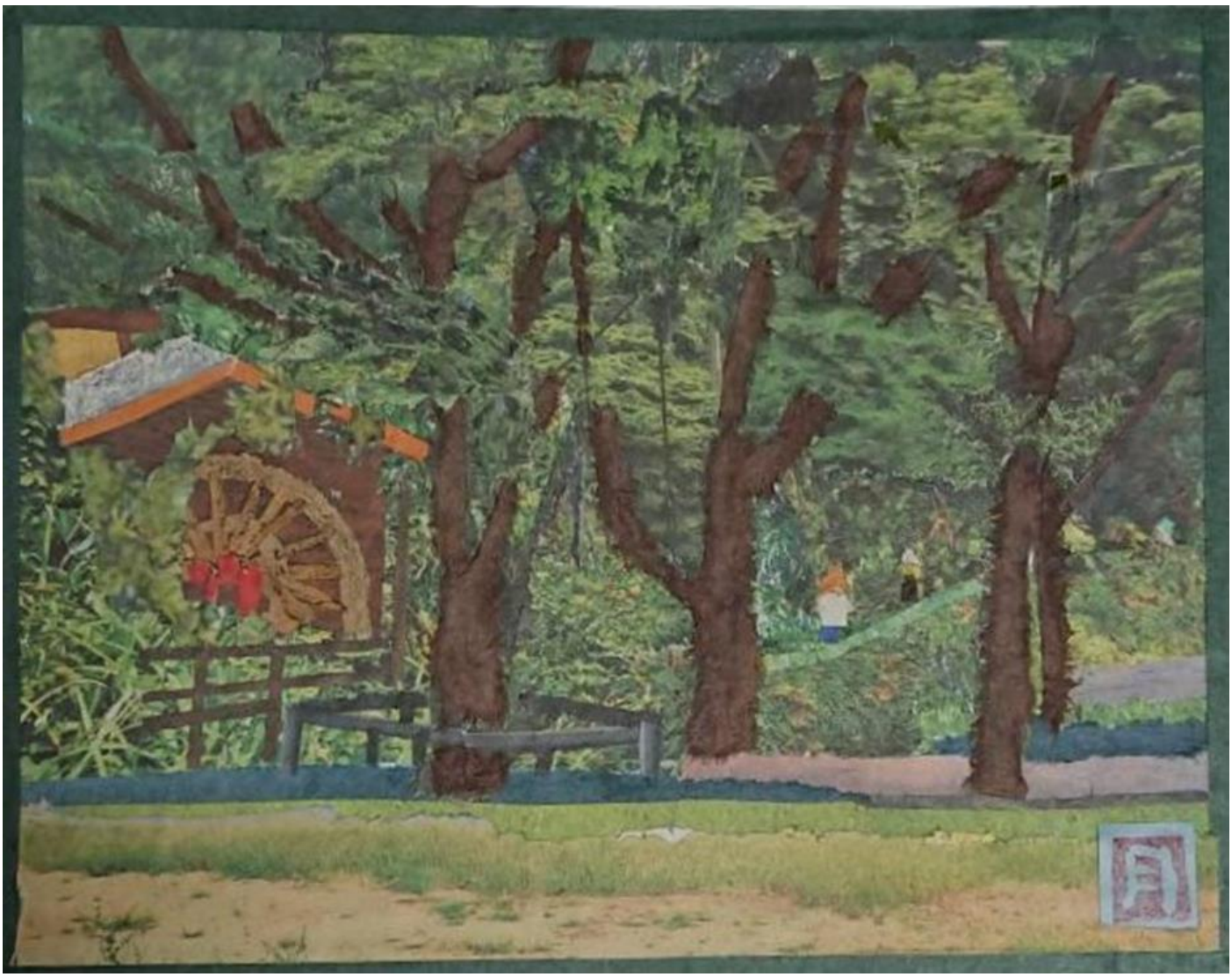
作者コメント

北斎の浮世絵のような素敵な景色でした。水鏡の描き方が難しかったです。

喜田コメント

紫の藤棚と、その下から見える真っ赤な太鼓橋と、水に映った構図が斬新です。
縦の線と横の線が画面を沢山よぎっています。縦と横の線が邪魔になるかと思いきや、これが結構作品にアクセントを与えていて重要な要素になっています。 縦と横の直線と太鼓橋の曲線のバランスも面白いと思います。 色彩的にも豊かできれいです。
岡田さんの作品から感じることは、モチーフから受けた感動をストレートに素直に画用紙の上に表現できる個性です。羨ましい個性です。上手に描こうとか見る人に褒めてもらおう、とかの気持ちがないから、観る人を感動させるのだ、ということです。
水面に映る藤の紫、新緑のみどり、太鼓橋の赤、空の色、が少し汚れたのが残念です。

2：月川りき江さん



緑の風景に溶け込む水車小屋　15cmx17cm（ちぎり絵）

作者コメント

昨年、都の新聞に、八王子のふれあいの里「緑の風景に溶け込む水車小屋」の写真がありました。 これを見た時、ちぎり絵にしてみたいと思い、拡大して始めましたが、少々いやになって中断していました。そして今回、再度挑戦してやっと出来上がりました。すべて新聞紙のカラー部分を集めて作りました。

喜田コメント

とても複雑な風景を「ちぎり絵」で表現できるのだなあ、というのが第１の驚きでした。
「これ油絵ですか？」「これ大きな作品ですか？」と聞きたくなります。こんなに複雑な木々の重なりや緑の変化を繊細な技術で良く表現したと感嘆しています。
正直に言ってこの貼り絵は、水彩画以上の力を持っています。
構図的にも手前の大きな松の木を透かして、左に水車小屋、右の奥には散策する人の姿、そして、大きな松の木の手前に広がる緑の芝生。十分に練られた構図です。
縦の線と横の線、そして水車の曲線が非常にうまく調和しています。色彩バランスも見事です。
５月の作品はみんなをあっと驚かす、との作者の先月の有言が見事に実行されました。

3：黒田重雄さん

新緑の池　F6（水彩）

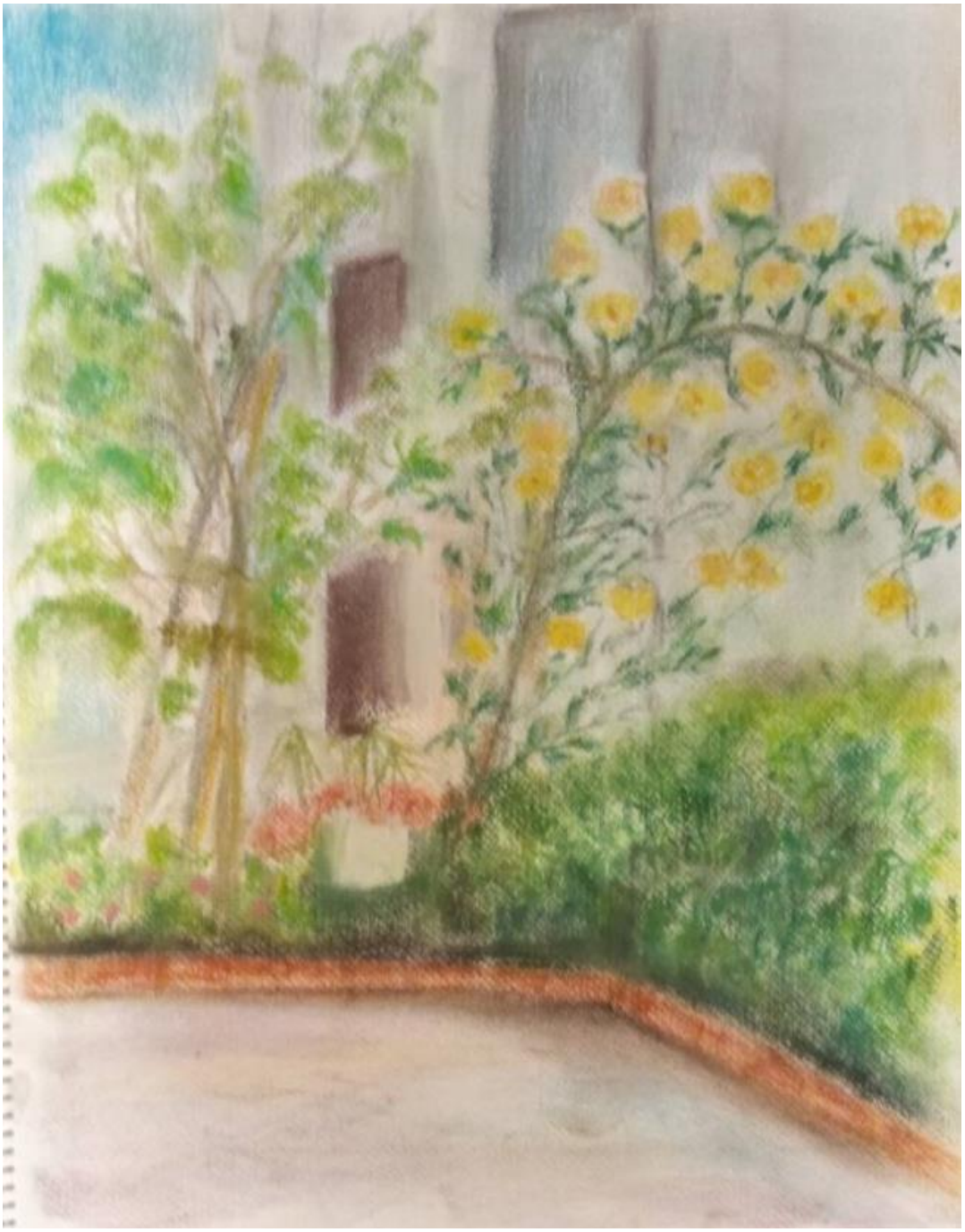
作者コメント

５月の日光植物園。新緑の季節、池に映える新緑とレンゲツツジが綺麗でした。
奥の林、中景の池に映る新緑とそのさざなみ、手前の草それぞれの描き分けがポイントになりました。

喜田コメント

作者は最近、水面に映る風景に魅せられているようです。 今月も水面に映る新緑の風景です。このようにモチーフにこだわりを持つということは成長の証なのです。
この絵は新緑の中に咲く赤い花が作品にシャープな命を吹き込んでいます。素晴らしいと思います。 対岸の木々が映っている水面、山が映っている水面、空が映っている水面、それぞれの水面の描き方を変えたのですか？ 改善点があるとすれば、近景の雑草の表現法です。中景・遠景と異なるもっと荒いタッチと色彩で描けばこの絵はもっと素晴らしくなると思います。

4：遠矢慶子さん



友人宅の玄関横の薔薇　F6（パステル）

作者コメント

久しぶりの風景スケッチで、皆さまのように、上手く描けません。
描くだけは、毎週仲間と描いてますけど。 早く皆さまと一緒に描きたいです。

喜田コメント

普段の生活でいつも見ていながら、気に留めずに通り過ぎる風景、こういう風景はたくさんあると思います。遠矢さんのこの作品のモチーフは何の変哲もない、そのような風景の一つで、特別のものではありません。 遠矢さんはいつもこのような平凡な風景をとても魅力的な作品に仕上げる名人です。
画家は屑籠の中にも「美」を見つけるといいます。 何を描こうかという意識が明確ならば、どんなモチーフでも描きようによって魅力ある絵になるということです。 改善展は一つだけ、この絵の主人公である「黄色い薔薇」の主張がもう少し強くてもいいと思います。

5：筒井隆一さん

全員集合　F4（水彩）

作者コメント

ウサギのお兄さんが、ラッパで仲間に連絡しています。 絵画教室は通信講座が長く続きましたが、いよいよ対面講座に戻る知らせです。

喜田コメント

作者のコメントを読んで、「あとりえ一丁」もそろそろ対面形式の講座にしなければと思いました。
ウサギのお兄さんがラッパを吹いて知らせることに微笑ましさと規律正しさを感じて笑ってしまいました。 とても面白い絵だと思います。筒井さんでないと描けない着想の絵です。
背景をブルーとグリーンに明快に分けたのも面白いと思います。
ウサギさんが台に乗って立っている敷物は、くねくねでなく、もう少しかっちりと描いた方が良いと思います。ラッパの音がビブラートのように震えて不安定に聴こえますからね。 床の上にイーゼルでも立てたらもっと面白いと思います。色彩の組み合わせはとっても良いと思います。

6：竹前義博さん

新緑の山　F6（水彩）

作者コメント

5月の山は、山全体が新緑におおわれ素晴らしい景観です。から松、広葉樹など、様々な木々がそれぞれに微妙に違った色合いを作り出します。

喜田コメント

須坂の新緑の山が感動と共に伝わってきます。
この作品の最も良い点は構図だと思います。 構図が良いと、描けば描くほど深みが出て作品が良くなってきます。 構図はそのように大切な基本なのです。
田舎の土の道がずーっと向こうまで左上方向に延びている。その角度を左上の山の稜線（左下がり）で調子を整えている。道の先に赤屋根の小屋があり、これが一つのアクセントになっています。
ほぼ全面緑の画面の中に　①左の赤い木と　②小屋の赤い屋根、が効果を出しています。
本当に左の木が赤かったかどうかは問題ではなく、赤い木を描いたことがよかったのです。
次に、改善点は、杉林の手前に横一列に並んでいる丸い木の塊の形と色です。形に変化をつけて。
黄色・紫・茶色・青・赤、等をもう少しいろいろな色を使って調子に変化をつけてください。
この絵は描きこめばどんどん良くなります。 もっと描きこんでください。

7：武智康子さん

練馬の野菜　F4（水彩）

作者コメント

私宅に出入りするクリーニング屋さんの実家が農家なので、時々朝採り野菜を届けてくれます。昨日、頂いたので採れたての野菜を描きました。 ただ、時間がなかったので、駄作になってしまいました。 レタス、茄子、トマトの新鮮さだけは出せたかなと思います。

喜田コメント

忙しい武智さん、午前３時まで頑張って、時間に間に合わせてくれました。
新鮮な地物の野菜 3 点です。まず、描こうとしている対象が明快でよいと思います。良くまとまっていると思います。 構図は前回に比べて格段に改善しました。 とてもバランスの良い構図に安定感があります。 これを届けてくれたクリーニング屋のお兄さんの好意と野菜の新鮮さが良く伝わってきます。 改善点は下記の２点です。
第１点目は影の描き方です。影は①分散している対象物を繋ぐ役割、②作品に奥行き感を出す役割、などがあります。影＝黒ではありません。もう少し透明感のある影を心がけましょう。
第２点目は、背景の描き方です。作品ごとに背景をどう描いたらよいか悩むところですが、この作品の場合、もう少し空気感を出して、シンプルに一色で抜けていた方が良いとおもいます。薄いブルー系で遠くまで抜けた感じで描いたらどうでしょうか？

8：若林哲史さん

群生ナニワイバラ　F4　（水彩）

作者コメント

井上さまから頂いた写真から切り取りました。
白い花を色で表現してみましたが、巧くいかなかったです。

喜田コメント

井上さんの家の庭に「ナニワイバラ」の大木があります。大輪の白い花を万遍に咲かせてそれは見事な薔薇です。
若林さんはその大木の薔薇の木から、その一部を切り取って写生しました。
まず、切り取り方がとても上手だと思います。そして、葉の一葉一葉に気持ちを込めて丁寧に描いています。葉の中心の葉脈の左右を色や濃淡でうまく描き分けています。
遠くにある葉をグレーでうっすら描いたところも、とても丁寧な仕事です。
また、真っ白な花弁に薄いピンク色を添えて、花弁の厚みとか温度とか手の感触を表現しようと挑戦した点も結構うまくいっていると思います。
構図的には画面の右端に空間を入れて成功。 課題は密集する葉と葉の間の処理でしょうか。 しかし、全体的にみると、申し分ない立派な作品だと思います。

9：井上清彦さん

薔薇の Y 氏邸　F4 （水彩）

作者コメント

寒緋桜の O 氏邸とは異なり、バラと緑から入りました。永山裕子さんの本を読んで、最初に水で濡らしてから描きました。滲みとぼかしが上手く出ませんでした。

喜田コメント

春爛漫・柳緑花紅など、花が咲き乱れているさまを表現する美しい言葉が日本には沢山あります。まさにこれらの言葉を描き表わした作品です。
この作品の良い点は「感動した気持ちで一気に描いた無秩序の美しさがある」とういう点だと思います。この作品には「きれいに描こう」「人に褒めてもらおう」「この遠近法は間違っていないか」など、雑念が全く無いことです。純粋な子供が一心不乱に描いた絵のようです。
観る者に感激が伝わってきます。私がこの絵を最初見た時、どっちが上でどっちが下かわかりませんでした。
この作品にはどこにも説明的な部分がなくて、YOKOYAMA という文字さえ絵の一部に溶け込んでいます。ちなみに絵画は説明的出会ってはいけません。
井上さんの絵は説明でなく、感性で描くことが特徴です。それが彼の個性的なのです。
最後に一つだけ注文を付ければ、鑑賞する人のために、どこかに安定した写実が欲しいということです。門のアーチでも、玄関の扉でも、写実があれば、観る者はそこを起点にして鑑賞します。 やはり、YOKOYAMA は作者のサインに見えますね。

10：喜田祐三さん

裏のお滝神社さま　F10（油彩）

作者コメント

わが家の裏に、大國魂神社の末社にあたる、「お滝神社」という本当に小さな祠があります。土地の人はそれを愛情をこめて「お滝神社さま」と呼びます。
お滝神社のわきから清らかな湧き水が今でも湧き出しています。
府中に住む私は毎日、はがきサイズのスケッチブックと色鉛筆をポケットに忍ばせて散歩がてら、スケッチすることが日課です。
この作品はそのスケッチの中の 1 枚をアトリエで「油彩画」にしたものです。

スケッチ　はがき大（色鉛筆）

以上